

住民の顔が見える広報を目指し、地域おこし協力隊がまちに飛び出て地域の皆さんをクローズアップ！

今回は、市立赤平総合病院の病棟改築に伴って、リニューアルオープンした「かあさん食堂ぼらん亭」で働く田野良子さん。笑顔の絶えない田野さんの活動を伺いました。

“生きがいを持って働ける喜び”



5年ほど前、市立赤平総合病院の存続が危ぶまれていたころ、病院内にあった食堂が休んでいた時期がありました。そんな状況を何とかしたいと思い、赤平ボランティアセンターの声掛けによって集まつたメンバーで食堂を開くことになりました。

現在は、20人のボランティアスタッフで運営しています。

私も、友達に誘われたことがきっかけで、ぼらん亭の活動に加わりました。20年近く調理師として働いていた経験を活かして、また働けることがすごく嬉しかったですね。

大変だと感じたことはありますか？

ないです。ぼらん亭に参加するようになつて、あつという間に5年が経ちました。一緒に活動しているボランティアスタッフといろんな話をしながら、毎日それまで知らなかつた新しい知識を知ることができ、新鮮な気持ちで過ごしています。なので、これまで特段大変だと思つたことはありません。

きっとその理由は、この歳に

なつても、誰かのためになつたり、必要とされることが嬉しくて仕方ないからだと思います。

かあさん食堂ぼらん亭を始めた経緯は？

印象的だったできごとは？

印象的だったのは、先日、知り合いから「病院の食堂は、だしが美味しいね」と言われました。どのメニューも一つひとつ心をこめてつくっています。そのなかでも特に、沢山の具材を使用した私たち自慢のだしを褒めてもらえたことは、とても嬉しかったですね。お米も、市内でつかれた「ゆめぴりか」を使用していく、とても美味しいんです。お客様が、きれいに食べ切つた食器を見ると嬉しくなります。

『食』は健康の源ですから、少しでも美味しく、また楽しく食べてもらえれば、仕事冥利に尽きますね。

今後の目標は？

編集後記

地域おこし協力隊 まちの情報発信部門
愛知県出身 野口暢子



北海道の冬は想像していた以上に寒いです。先日、少し早起きしてタオルを振り回したところ、カッチカチに固まってしまいました！赤平でまさかこんな体験ができるなんて！驚きました（笑）。



趣味で30年近く油絵を続けている田野さん。元気の源を聞くと、大好きな韓流ドラマを見たり、ご近所さんと楽しく話すことが秘訣だそう。